



## 植民地朝鮮のプロレタリア文学運動を考える

### 「普遍的な外部性について：プロレタリア文学と大衆化」

植民地時期、無産階級のために文化をもって闘うとする人々、封建的、資本主義的観念を徹底的に排撃し、専制的勢力との抗いにすべてを賭けた文学者たち。

いま、ここで、当時のかれらの夢を想起し再び議論するとはいかなる営みでしょうか。

<奄美—沖縄—琉球>研究センターでは、春学期第一回目の企画として、**車承棋**さんをお招きし、植民地朝鮮のプロレタリア文学運動において「大衆の獲得」という課題をどのように思考したかを吟味します。かかる作業をとおして「進歩的」文学(文化)運動と植民地/帝国の言説、法やメディアという場との関係を再考します。

- ・講演 **車承棋**(韓国朝鮮大学校)
- ・主題 「普遍的な外部性について：プロレタリア文学と大衆化」
- ・発言 **姜文姫**(成均館大学校)ほか
- ・司会 **富山一郎**
  
- ・日時 2015年4月17日(金) 16時半より
- ・場所 同志社大学アームストロング館ダイニングホール
- ・主催 <奄美—沖縄—琉球>研究センター、「車承棋さんを囲む会」

